



DAMANHUR
 ダマヌール日本ニュースレター

ぽぽろ



《 第46 春号 》

発行 ダマヌール日本
 発行日 2019年3月20日
<http://www.damanhur.jp>

POPOLO

春号

自然の精霊



はじめに

あなたは俵屋宗達に代表される有名な風神雷神図をご存知でしょうか？ 風の袋から風や雨をもたらす風の神様と、太鼓を叩いて雷を起す雷の神様を描いた傑作です。日本では古代より八百万の神々を信じ、豊かな自然の中で森羅万象に神が宿り、さまざまな神様が存在していました。

例えば風の神様の下では風や空気に関する専門性を持つ自然の精霊が働いています。あなたは信じられますか？ 桜が咲く頃には花の精霊が花を咲かせるために仕事をするのです。そして、風(空気)の精霊は花びらをはらはらと散らせたり、あなたの側で小さなつむじ風を起こして花びらを浴びせたりすることもあるのです。

ダマヌールのスピリチュアルリーダーだったファルコが森を歩いていると「ちょっと、ちょっと、私と話していかない?」「あなたたちに話しかけてもちっとも気づいてくれないし、まるで私たちがいないか

のように通り過ぎて行くんだから…」と声が聞こえました。自然の精霊が話しかけてきたのでした。

森はマジックな場所

かつて古代において人間が調和的に生きていた時代には、汚染されていない空気と大地と海があり、豊かな森が広がって、人間と自然の精霊と植物たちは共存していたのです。

森に入った体験で、あなたは自然の美しさや清々しさに感動したり、畏敬の念を抱いたことはありませんか？ 緑の木漏れ日と小鳥の鳴き声…森は神聖で懐かしくもあり、私たちは誰もが森を心安らげる場所として愛しています。

私たちが森に感動したり畏敬の念を抱くのは、物質的な森の機能や効用だけでなく、人間と自然の精霊と植物たちが調和的に生きていた時代の記憶によるものかもしれません。

ダマヌールの哲学では、森はマジックな場所です。

そこでは、動物、植物、自然の精霊たちの生命の複雑さが、調和のとれた形で織り合わされて表現されています。自然の精霊には知性があり、肉体を持たずエネルギー体で存在します。動植物は本質的に彼らを認識し、彼らと調和して共に暮らすことができます。

一方、私たち人間は物質文明に冒され、自然の精霊を認識できなくなり、彼らの存在を忘れてしまいました。また、自然の精霊は環境汚染や人間の否定的な思考によって彼らの居住地が損なわれると、その土地を放棄してしまいます。その結果、人間は自然の精霊と共生して生きることで得られる恩恵がまったくなくなってしまうのです。

ダマヌールでは自然の精霊の繁栄と主権を尊重し、人間が手を加えることを制限した「小さな意識の森」を作りました。この森は約40年前のダマヌール土地購入時から自然の精霊に捧げた森として保全され、ここに存在する木々や花や実を人間が勝手に採取することを禁じています。

*今号の表紙は、「小さな意識の森」の入り口の写真です。

ダマヌールの森の再生

ダマヌールには「小さな意識の森」以外に、自然の精霊に捧げた「植物の神殿」があります。かつては「聖なる森」と呼ばれ、ダマヌール市民たちにより再生された森です。ダマヌールでは、暖房の薪を採取するためだけに使われて、放棄され荒れた栗の森を数多く徐々に買い広げていきました。そして、忍耐力を持ち献身的に森の再生を継続して、多くの動植物を再導入し豊かな森へと復元させたのです。

「聖なる森」には、木々や自然の精霊と触れ合う瞑想のための場所が創られました。また、地面に置かれた石で多くのサーキット(螺旋や迷路)が作られ、黄色やピンクや水色で美しく着色されました。サーキットはシンクロニックラインで得られるエネルギーで活性化され、それぞれが異なる機能を持ち、すべてがシンクロニックラインが交差する「人類の



神殿」へと繋がっています。さらに、サーキットは森の中や周りに数キロに渡って広がっています。

そして、ダマヌール市民はこの森でサバイバルの体験をして個々の変容をもたらす実験を行いました。また、植物の世界の感性に関する研究、サーキットを使った探求などが行われ、生き生きとした歴史をこの森に刻んできました。

こうして「聖なる森」は「植物の神殿」へと変容しました。今日の神聖な「植物の神殿」は、実際には同じ山の地下に掘られた「人類の神殿」の延長と考えられています。



自然の精霊たち

今日、「小さな意識の森」や「植物の神殿」などダマヌールのテリトリーには、実際に自然の精霊たちが住んでいます。あなたは自然の精霊にどんなイメージを抱くでしょうか？ 民話や伝説の中の自然の精霊の描写には象徴的な真実も含まれていますが、全てが正しいわけではありません。

今回、ダマヌールの創立者の一人であり、日本の大使であるフェニーチェ・フェルチェ氏に「自然の精霊」について語ってもらいました。

自然の精霊は、私たちの想像力が生み出したものではなく、元々自然の中に存在しています。

そして、地球の自然を司っているパンの神様に所属し、一つ一つの異なった命の形が自然の中で存在できるように、成長していくように、やるべき役割を持っています。植物の世界が繁栄するために共同し、例えば、花が成長していくとき、花のために働き、大きくなるように、無事に育つように一つの機能として働きます。

また、水源があれば、その水で世の中の命の形が養われるように、水源をうまく機能するように働く水の精霊がいます。人間が水源を大事にせず、そんざいに扱って枯れることがあれば、水の精霊が違う場所から水が出るように流れを変えることがあります。

自然の精霊たちとの同盟



自然に生えているキノコは、あるタイプの精霊が家のように使っている場合があります。私たちがキノコ狩りに行くと、元々精霊の家だったのに取り去った状態になります。また、誰かが綺麗なキノコを見つけて、こんなものは毒キノコだと踏みつけるかもしれませんが、自然の精霊にとっては破壊行為にあたります。精霊はとても怒って、そういう行為をした人を覚えています。その人が歩いて行くところを滑るようにして、その人が転んで泥んこになったら頭に栗のイガが落ちて来たとか…人間に気づいてもらうために、そうすることもあるのです。

次のフェニーチェの体験はとても興味深いものです。何年前か前に、フェニーチェたちが研究のグループで降霊術をやっていると、自然の精霊がやって来て次のように語りました。

あなたたちは何か表現されているところしか見ない。けれど、私たちの周りはずべて命、命の形が存在する。例えば、雪が降ってくると『あーあ、雪が降って来た！雪が降って来た！』と、それしか見ない…。自然の精霊は空から一つ一つの雪の結晶に乗って、ガイドしながらやってくる。大地のここだと降りてくる。自然の精霊は雪の結晶が大地に着いたら、降りて、また空に戻って、別の雪の結晶をガイドする。そういう仕事がたくさんあり、自然の中でそれぞれの役割を果たしている。この宇宙は私たちの自然の表現の中にたくさんの命の形があり、その中の一部としていろいろなタイプの自然の精霊がいる。

私たち人間は自然の精霊の働きに気づきもしませんが、現実には想像を超えるファンタジーの世界が広がっています。この世界は目に見えない命の存在たちにも支えられているのでしょう。雪が降るとワクワクする純粋で無邪気な子供たちは、無意識のうちに精霊の訪れを感じているかのようです。



1985年、ダマヌールでは「オリオ・カルド」という自給自足の実験をしました。すべてのダマヌール市民は交代で参加して、自家製の食べ物だけを食べて、コミュニティ内で作られた服や靴を履いていました。交通手段は古い自転車2台と手で動くワゴン1台でした。織り機で布を織り手縫いで服を作りました。手作りの木製の靴で何キロも歩き回り、採取した栗や他のものを運ぶバスケットを編むためにツタを採取しました。バターを作りました。必要な電気を生み出すためにペダリングもしました。これらは、体験したすべての人の見方を変えた冒険だったのです。今日では「オリオ・カルド」は、物質面と精神面の両方に対して生活の質を達成するコンセプトとして発展しています。

また、この実験はダマヌールが自然と共に生き、自然の精霊との関係を取り戻して、人間を信頼して共同することを受け入れてもらうために必要なことでした。その結果、自然の精霊は人間との共同を受け入れ、自然の精霊の長が同盟に調印をしました。変わりやすい人間の行為には一週間ごとの調印が必要になり、最初の調印以降、欠かさず毎週見直して調印を更新しています。

さまざまな自然の精霊の働きがあってこそ存続可能で美しい地球が成り立ち、私たち人間にも精神的貢献がもたらされるのです。今日でもダマヌールでは、自然の精霊やサトルな存在や木々へ尊厳をこめて挨拶をし、全ての存在たちと調和的な関係が結べるように努力しています。

以前、フェニーチェは四日市で駐車中にティンカーベルを見たと言ったことがありました。その家の人は花が好きで種から大切に育てていた、立派に整った庭ではないけれど、常日頃から愛情をかけて花の世話を欠かさずしていたそうです。そんな庭は精霊にとっても居心地が良く、花々の生育のために忙しく働いていたことでしょう。人が愛情を持って育てれば、蕾がたくさんついたり、成長が早くなることは一般にもいわれていますが、自然の精霊が関与していると感じる人は滅多にいません。

また、私たちの仲間には木の精霊とコンタクトしてアドバイスをもらった人や、北海道の木の活性化時にコロボックルと出会った体験を持つ人もいます。自然の精霊は存在を信じる人の前だけに姿を現すといわれ、私たちが想像する形に姿を変えることがあります。彼らと会うには、まず彼らの存在を信じることで、そして感じ、自然を愛することが大切です。私たちが子供のような純粋さと無邪気さを思い出し、自然の精霊の役割を知って身近に感じたら、人間と自然の精霊との調和的な関係が一步も二歩も進むことでしょう。

高坂和導祭 ダマヌール基調講演

2018年10月17日、「高坂和導祭ダマヌール基調講演」が東京で行われました。故人である高坂和導氏は『竹内文書』(注1)の著名な研究家で、ダマヌール日本大使のフェニーチェやジュゴンと親交があり、1999年にはダマヌールを訪問して、スピリチュアルリーダーだったファルコに『竹内文書』を手渡しています。この日は彼の17回目の命日にあたり、和導氏の妻である三和導代氏が今回の催しを企画しました。会場には、定員の60名を超える74名の参加者が集まり、熱気に包まれて、「アトランティスとエジプト」さらに「地球の古代文明と人間の歴史」のフェニーチェの講演は4時間以上行われて大盛況となりました。時折、驚きの歓声やどよめきが起り、参加者は初めて聞く不思議な話に心を奪われている様子でした。最後の質問コーナーでは、ジュゴンが質問に明確に答えて「長年の疑問が解けた」「面白かった」と多くの参加者の笑顔がありました。

竹内文書の世界へ

さて、和導氏が研究した竹内文書とはどんな書物なのでしょうか？竹内文書は、日本最古の史書とされる古事記の成立より200年以上も前のものだそうで、和導氏は以下のように著書(注2)に書いています。

茨城県北茨城市にある皇祖皇太神宮には、管長職である竹内家によって代々守り続けられてきた数々の古文書や神宝類が存在する。それらの総称を竹内文書もしくは竹内文献と呼んでいる。

質量ともに古事記をはるかに凌駕する神代の記録であり、皇統譜である。天神七代に始まり、上古二十五代、不合朝七十三代、そして現在の天皇に繋がる神倭朝まで、四つの大きな時代区分を背景に、その時々の治世方針や文化状況が、神代文字(漢字以前に存在した日本の古代文字)によって克明に記されている。

そこに綴られているのは、常識を覆す歴史の記録である。天皇家が他天体から宇宙船で地球に来訪したこと。日本に世界政府が置かれ、天皇が世界を統一していたこと。

初めて読む人にはびっくりする内容ですが、超古代史に半生を捧げ、世界各地を回って竹内文書の資料を集め検証していた和導氏にとっては、超古代において調和的で高度な文明を築きながらも滅んだ時代を現在に重ねて、警鐘をならしていたのでしよう。和導氏は壮大なファンタジーに思える竹内文書の世界を、実際に歩き、インタビューし、導かれるように多くのエビデンスを集め、謎を解いていきました。



本当のことが知りたい

和導氏の志を引き継ぎながら、アフリカを複数回訪れている三和氏から、サハラ砂漠の砂の中から縄文土器のかけらが出てくると聞くと、あなたはどのように思われるでしょうか？三和氏はアフリカの旅の報告会で「本当のことが知りたい」と話されていました。来たる4月28日には、続編としてフェニーチェのワンディセミナー「時間の秘密 ～タイムトラベルはなぜ可能か～」を主催されます。どうぞ、ご期待ください。

なお、2018年10月17日に行われた「アトランティスとエジプト」と「地球の古代文明と人間の歴史」他は、夏には書籍となる予定です。

(注1)

ウィキペディアでは「竹内文書は、(たけうちもんじょ、たけのうちもんじょ、磯原文書、天津教文書ともいう)神代文字で記された文書と、それを武烈天皇の勅命により武内宿禰(タケノウチノスクネ)の孫の平群真鳥(ヘグリノマトリ)が漢字とカタカナ交じり文に訳したとする写本群と、文字の刻まれた石、鉄剣など、一連の総称」と書かれている。

(注2)

[超図解] 竹内文書Ⅱ 高坂和導 徳間書房

美しい海を取り戻そう

来る2019年6月、主要20カ国・地域(G20)首脳会議が大阪で開催されます。それに先駆けて、政府はプラスチックごみの海洋汚染対策を強化するため、国連に作業部会を設置する決議書を共同提出しました。国レベルの取り組み以上に大切なのは消費する私たちの選択と行動にかかっています。海に漂うプラスチックの99%は行方不明で、ほとんど目に見えないマイクロプラスチックとなり、新たな生態系、プラスチック生命圏を形成していると言われます。プラスチックを減らし、できるだけ使わない生活を継続していきましょう。

ぼぼろ45号では「プラスチック問題」について特集しています。

プラノセラピー体験記

～骨折を体験して～

昨年1月、階段を踏み外し左足果骨折手術を受けました。ケガをした日は数日前に降った雪の影響で、どこの病院もベッドの空きがなく、応急措置のみの条件で地元の救急病院に運ばれました。

レントゲン後に応急措置待ちをしていると、隣から『全治3ヶ月、左足首外果骨折で手術が必要』と聞こえ、私と全く同じ事を言われている年配男性がいました。

翌日の外来診察では、待合室でその男性が『痛て～痛て～』と無意識に痛みを口にしていたのですが、私の場合はケガをした直後から8日間プラノセラピーをしていたので、足が固定されている違和感を感じる程度ですみました。

ケガをした日から6日目に1週間の入院予定で手術をしましたが、手術翌日の採血結果でも『何の問題もないのでベッドの空きを作るのにご協力ください』と言われて退院が決まりました。顔を合わせる度に看護師さん達から、すごい回復力ですね。お若いから体力が違いますね。と言われていましたが、更年期障害の影響も出始め、甲状腺疾患も抱えているので、体力も免疫力も低くいますが、健康な成人男性並みの回復力を持てたのはプラノセラピーの力が大きく働いたと思います。

*この体験記の内容は個人的な感想であり、ヒーリングの結果を保証するものではありません。

骨折手術は手術前も手術後も痛み止めを飲まないで居られない痛さだと言われましたが、1度も痛み止めを必要としなかったのも、お医者さん不思議に思ったようです。(K.Y)

ダマヌールのヒーリング プラノセラピー

プラノセラピーはダマヌールの自然医学の中でも基礎となる安全でパワフルなヒーリングです。

オーラ、肉体、魂の全てに良い影響を及ぼし、特にバランスの崩れている部分に集中して流れ、全体のバランスを取り戻します。体も心も美しく健康でいたい、スピリチュアルな成長がしたいという方に、夢を実現させたい方にプラノセラピーをお勧めします。

プラノセラピーは、神戸センターとイピアルの他、各地で受けられます。「体験会」も各地で開催しています。詳細は下記までお問い合わせください。

●プラノセラピーに関するお問合せ先

ダマヌール日本神戸センター

0798-23-9161

damanhur-kobe@s5.dion.ne.jp

ダマヌール日本支援ネットワーク イピアル

052-683-8233

jpjal@crux.ocn.ne.jp

「ヒーラーのブラッシュアップ研修会」を受講して

2月23日・24日、日本のプラノセラピーのヒーラーを対象に、日本大使として活躍中のフェニーチェとダマヌールの公開大学の責任者の一人であるアンティロペを迎えて、「ヒーラーのブラッシュアップ研修会」が行われました。

参加した18名のヒーラーたちは、日頃から疑問に思っている質問で不明瞭だった箇所が明らかになり、スピリチュアルヒーラーとしての精神的な変容や成長が大切であることを改めて確認しました。



スピリチュアルリーダーだったファルコの直接の指導を受け、研究熱心で深い知識を持つ2人から学べたことはとても幸運でした。また、希望者に行われた2人によるグループヒーリングやアンティロペのスティロセルフを使ったヒーリングなどは、体験を共有し学びの一助となりました。最後に茶話会でアンティロペの誕生日を祝い、楽しく有意義な研修会は終了しました。

また、ダマヌール日本では、以前から傷んだ木や病気の木にもプラノセラピーを行っています。2019年からは植物と人間との強い絆を築き、木々を癒す活動として、積極的に木にプラノセラピーを行なっています。木々は人間よりも、知恵があり、記憶があり、広い視点と心を持っていて、人間との精神的な進化の共同を受け入れてくれる存在です。人間が作り出した自然破壊や環境汚染で困難にある木々とヒーラーがプラナのエネルギーを通して繋がりを持つ貴重な体験は、未来に向けて明るい希望をもたらすことでしょう。ヒーラーたちにとっても、プラノセラピーで木々を癒せることはとても大きな喜びとなっています。

今回の過去生リサーチで4回目の参加になりました。初めての時は、ダマヌールを全く知りませんでした。何をやる団体なのか、イタリア語はわからないけれど、自分の過去生に興味がありました。自分はやほど悪い事をしてきた過去生なのだろうと、覚悟をして参加しました。

私の初回の過去生は、古代ボルネオ、キーワードが、「森」「狩人」でした。キーワードを聞いた瞬間に、私は涙が止まらなくなりました。何だか緑の香りや湿度が懐かしいような感覚でした。自分が男である事はすぐにわかりました。体が筋肉で重たかったです。この時の過去生では私が関わった人物はほとんど出てきませんでした。自分が幸せである事はわかりました。今の私は自然はまわりにほとんどないし、その事に何も感じないでいますが、この過去生の私は常に自然と共に生きていました。それが無条件に幸せだと感じたのです。

2回目は年代不詳のグリーンランドのイヌイット。また狩猟をしていました。3回目は時代不詳のネイティブアメリカン。この時は狩りではなく、戦士をしていました。4回目はようやく現代に近づき、19世紀のアメリカ。蒸気機関車を作る技術者でした。

たまには金持ちのお姫様だった、とか言われてみたい気もしますが、今の私だとそうはならないでしょう。私は過去生リサーチを受けるたびに、どの時代、どんな人物であっても、自分を感じます。自分を強烈に感じて、自分と出会った瞬間に、涙が止まらなくなります。過去生の自分と今の自分の体験から学ぶものがあるし、過去生リサーチは他にはない良さがあります。(M.H)

次回の過去生リサーチは、11月9日10日開催！
申込締切は9月1日。お早目にお申込みください。

来日セミナー講師 フェニーチェ・フェルチェ



ナチュラルセラピー・ホリスティック健康科学博士。ダマヌール創立メンバーの一人。スピリチュアルヒーラー。秘教的物理学・ダウジング・インナーハーモニゼーション・セルフ学的催眠療法・アストラトラベルのスペシャリスト、古代エジプト哲学とミステリー

の研究者として国際的に活躍しています。その豊かな研究体験と深い理解と幅広い知識にあふれた講演は常に多くの参加者を魅了してやみません。

「スピリチュアルヒーラーコース2年目」を受講して

コース2年目、長年の体験・探求のエッセンスを惜しげもなく伝えて下さる先生方に導かれ、ジュゴンさんの絶妙な通訳に助けられ、個性豊かな仲間と共に、毎日ドキドキ取り組めた贅沢な11日間でした。

あるときは、音楽を聴いていると胸のあたりがふるえ出し、涙があふれ続け「体全体が私だったんだ」と内から声が上がり、「私はふるえなかったんだ。それが、世界とリアルに交流することだったんだ」と長年の問いに答をもらったような感動でした。外に出ると、何とも気持ちが良くて、世界に向かって腕を伸ばしたい気分でした。

私とは？という宿題に取り組んであるところまで来たとき、「答はない」というのがふと出てきて「そうか、私は何者でもないし、何にでもなれるんだ」と思ったら、すごく自由になって楽になって、目の前が広がるような感じでした。翌日、儀式の火を見ているとき、「人と違っていても、人から何を言われても、私は私。私は、私のまま、ここにいていい」という想いが湧いてきて、自分の中心にエネルギーがどんどん満ちてきて、大地の上にとんと立っている感覚になりました。すぐ不安になり自分が揺らいでしまう私にとっては、こんなにパワフルに存在することもできるのか

と驚きの快感でした。

「感じる」が思うようにできなくて行き詰っていたときには、先生の言葉のおかげで「まず力を抜いて自分を開いてみればいいのかも」と気づけて、笑顔復活。自分の内面の広大な光り輝くような世界を感じていたときには、「そうだ、ここから何かを創ってみよう」「喜び！」と心の中で叫んだら、その瞬間、喜びがパーッと拡がって、世界に喜びが満ちあふれ…「そうか、自分で創り出すことができるんだ。自分が望むものを生み出していいんだ」と希望を感じる事ができました。

自分の中のパーソナリティーたちの存在を実感できたことも思いがけない体験で、深いあたたかさ(慈しみ)に照らされたような感覚、『一人じゃない』という圧倒的な感覚、「どんなときもそばにいる」「もっと力あげば～」というメッセージ、何とも言えない感情の共有…突然押し寄せる感覚に自分の奥が大きくふるえました。

まだまだ書き切れない感動がたくさんあり、他の方々もその人にしかできない体験を重ねておられたようです。関わって下さったすべての存在に心から感謝致します。(M.N)

来日セミナースケジュール 2019年4月以降

2019年4月～5月のミニ講演会

★【人間は三次元のマジックなデザイン】 in 名古屋 ミニ講演会

講師：フェニーチェ・フェルチェ
開催日：4月18日(土)
時間：18:30～20:30
場所：ウインクあいち 1008号室
交「名古屋駅」より徒歩5分
参加費：3,000円

★【ダマヌールのヒーリングと健康観】 in 神戸 ミニ講演会

講師：フェニーチェ・フェルチェ
開催日：5月6日(月・祝)
時間：13:30～15:30
場所：神戸市勤労会館 405号室
交「三宮駅」より徒歩5分
参加費：3,000円

2019年4月ワンデイセミナー

★【時間の秘密】 ～タイムトラベルはなぜ可能か～ in 東京 ワンデイセミナー

講師：フェニーチェ・フェルチェ
開催日：4月28日(日)
時間：10:00～18:00
場所：大田区産業プラザPiO 6階 C会議室
交「京急蒲田駅」より徒歩3分
参加費：20,000円
お申込み・お問合せ：三和導代さん
nobuyo@s6.dion.ne.jp

フェニーチェ・フェルチェ 個人セッション

各セミナー会場では、フェニーチェの個人セッションを受けることができます。ヒーリングは3名以上の場合、よりパワフルなグループヒーリングになります。リーディングは、一人1時間 通訳付。いずれも要予約。詳細はお問合せください。

ダマヌール日本は、世界中にあるダマヌールのセンターの一つとして、持続可能な社会を実現するための情報、より良く生きるための精神的な知識やヒーリングを日本にもたらすために1999年より活動しています。

来日セミナー・現地体験セミナー等の開催 / メールマガジン・ニュースレターの発行 / ダマヌール関連書籍やCDの紹介 / クラシックセルフの紹介 / ダマヌールのヒーリング / 樹の意識の活性化 / ダマヌールを知る会・セルフティックペインティングを観る会等の開催

HP: www.damanhur.jp
FB: <https://www.facebook.com/damanhur.jp>

2019年4月～5月のセミナー

★【人生を越えて】 ～より良く生きるために死のメカニズムからのアプローチ～ in 名古屋 2日間セミナー

講師：フェニーチェ・フェルチェ
開催日：4月20日(土)21日(日)
時間：両日とも10:00～18:00
場所：ウインクあいち 20日1309号室 21日1307号室
交「名古屋駅」より徒歩5分
参加費：40,000円(事前振込39,000円)

★【パーソナリティーのコース】 in 京都 1泊2日のセミナー

講師：フェニーチェ・フェルチェ
開催日：5月11日(土)12日(日)
時間：両日とも10:00～18:00
場所：関西セミナーハウス(修学院きらら山荘)
参加費：44,000円(事前振込43,000円)
* 1泊2日のセミナーです。
宿泊は関西セミナーハウスにて。料金別途

2019年7月以降のセミナー

★【インナーハーモニゼーション III】 in 京都 2日間セミナー

講師：フェニーチェ・フェルチェ
開催日：9月28日(土)29日(日) レベルIとII
修了者対象
時間：両日とも10:00～18:00
場所：関西セミナーハウス(修学院きらら山荘)
参加費：40,000円(事前振込39,000円)
* 関西セミナーハウスにて宿泊可。料金別途

★【過去生のリサーチ】 in 京都 1泊2日のセミナー

講師：フェニーチェ・フェルチェ
開催日：11月9日(土)10日(日)
時間：9日10:00開始
10日18:00終了予定
場所：関西セミナーハウス(修学院きらら山荘)
参加費：60,000円
*ダマヌールでの事前調査費を含む
* 関西セミナーハウスにて宿泊。料金別途

《関西セミナーハウス交通案内》

叡山電鉄「修学院駅」下車徒歩15分
または、地下鉄烏丸線「北山駅」からタクシーで10分。

● お問合せ・お申込み先

ダマヌール日本神戸センター
0798-23-9161
damanhur-kobe@s5.dion.ne.jp

ダマヌール日本支援ネットワーク イピアル
052-683-8233
jpjal@crux.ocn.ne.jp

ダマヌールのコミック「記憶のトランク」より (7)

ついにメディテーションコースが始まりました…

① 翌日の夜

よるしい、始めましょう…
これまで私たちはたくさんことをやってきました。でも本当に大切なことを…

…そのために私たちがこの人生で出会ったそのことを、今夜始めましょう。

このコースはイルミネーションに導き、あなたたちの人生を完全に変容させます。ですから、本当によく考えなさい！もし先に進むことを選ぶなら、いくつかの規則に従わなければなりません。絶対に時間厳守…常に出席する…禁煙…その他のことは少しずつわかるでしょう。

安全上の理由で、そしてあなたたち自身の保護のためにも、このコースで学んだことはすべて守秘義務があり、まったく誰にも話すことはできません。

おやすみ、おやすみ、また来週。

なんだこれは！ちよつと大きなんじゃないのか？

マスターを見つけたわ。

今夜のこととは長く覚えているだろうな…

決定的にインドのとは違うな。

もしも何も真実ではなかったら？

②

こんなふうにはメディテーションは生まれたのだよ。一生懸命コースであり、その先も…それはあなたの人生になる！日常生活に適用すべき精神的選択だ。理想と選択とが一致しているということの意味するからね。

飼育された魔法使いではなく、放し飼いの魔法使いになるための道のり。メディテーションは1日24時間を通してのものなのだ。メディテーションなしにはダマヌールは存在しないだろう。

それは一人ひとりに宿る内なる神の覚醒のための、メタモルフォーゼに向けてのイニシエーションに基づいた道のり。人間の価値を発見し再発見する、それは全く宇宙的な価値だ。

神の本質への覚醒を自分の中に見つけるために、人間がいかなる奴隷状態からも解放されるように。

命の道のり。メディテーションとはしつと座って瞑想することではなく、物質の世界で(何か)をする。存在する(何か)になる。行動すること。手を使って仕事をしながら瞑想するのだよ。

メディテーションは個人の道でありグループの道なのだ。そこでは一人ひとりは他の人たちとともに成長し、他の人たちとの相互関係や交換を通して進んでいる。

メディテーションは知識への道なのだ。そして知識は海の中の一滴であるという意識、全体の中の自覚している部分につながっていく…

???

ZZZ

!?!?

③

こうして本当の冒険が始まったの！メディテーションは私たちにマジックな次元を見るようにしてくれた。そこでは古代の知識が生き生きと息づいていて、私たちは私たちがよりはるかに大きいデザインの一部だということがわかったの。

オベルト、地球には特殊なエネルギーのラインがあるということを読んだよ。それを中国人は竜の背と呼んでいたと…

そう、それはシンクロニックラインだよ。地球のマジックなポイントをつなぎ、地球を宇宙につないでいる。

シンクロニックライン？それで…どこを通っているのか、どうしたらわかるのかな？

古い小地図はあるが、完全ではない…だが古代の偉大な聖なるモニュメントがどこに建造されたかを見ることが出来る。

とりわけ勉強や超感覚的能力、探検したいという大きな欲求に役に立つよ。

シンクロニックラインの近くで生きると、世界に考えやアイデアを増やすことができるし、夢ももっと速く実現することができる。

それじゃあ…僕たちにはまさにそんな場所が役に立つわ！

本当だね！探しに行こうじゃないか。

④

私たちが地球のシンクロニックラインの調査に出かけたのはこういうわけでした！

ネパール

リラックスして…感覚を鋭敏にしたら、この場所でエネルギーの強い存在を感じるだろう。

中国

けっこうな散歩をしたね。疲れたかい？

それは引き返そう。

少しは、い。かなり。

次号、彼らが見つけた場所は…